

教職課程の到達目標と各段階における到達目標及び目標到達の確認指標となる評価項目

本学の教職課程の具体的な到達目標は、次のⅠ～Ⅳの各事項に設定した9項目である。

Ⅰ 教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項

- 教育に対する情熱を持ち、絶えず自らの実践を省察し、生徒と共に学び成長しようとする姿勢が身についている。
- 高い倫理観と規範意識を持ち、自己の職責を果たすことができる。

Ⅱ 教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項

- 教員としての職責の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。
- 組織の一員としての自覚を持ち、同僚性を高め、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。

Ⅲ 教員として求められる生徒理解や学級経営等に関する事項

- 生徒と信頼関係を築き、豊かな人間的交流を行うことができる。
- 生徒理解に基づき、適切な指導や学級経営を行うことができる。
- 特別な支援を必要とする生徒について、障害の特性など基本的な知識を有し、教育的ニーズに対して適切な支援を行うことができる。

Ⅳ 教員として求められる教科の指導力に関する事項

- 学習指導の基本的事項を身につけていて、生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。
- 板書や発問、的確な話し方や教材の活用など、基本的な表現力や授業技術を身につけている。

これらの資質能力が身につけているかを最終的に確認する科目が、4年次後期に履修する「教職実践演習」であり、そこに至るまでの各段階における到達目標は、次のとおりである。

【1年次】

1年次と2年次は、基礎学修期である。

「教職概論」では、教員免許制度・採用プロセス・教員としての義務と処分、教育基本法や学習指導要領、いじめや不登校などの生徒指導など、教員としての実務に関する基礎的な知識の定着を身につける。

「特別支援教育論」では、特別な支援を必要とする生徒の障害の特性や心身の発達について基礎的な知識を身につけるとともに、障害だけでなく家庭環境や使用言語などによる特別な教育的ニーズのある生徒について、学習や生活の困難さを理解し、適切な支援について考えることができる。

「総合的な学習（探究）の時間の指導法」では、「総合的な学習（探究）の時間」が教育課程に位置付けられた経緯や教育的意義及び特質を理解し、指導計画の作成及び具体的な指導法並びに評価に関する基礎的な能力を身につける。

【2年次】

「教育原理」では、教育学の諸概念に関する基礎知識を獲得するとともに、教育の本質及び目標について理解することを目指す。また、現代社会で問題となっている教育をめぐる諸課題を歴史的視座から捉えるとともに、代表的な教育家の思想を理解し、その思想が我々の教育観にいかなる影響を及ぼしているか把握することを目指す。

「教育と社会」では、現代日本社会が直面しているさまざまな教育問題を扱いながら、教育の社会的・制度的・経営的事項について学ぶ。特に、当為と事実の区別を理解し、データに基づく実証的な観点を身につける。

「発達と教育の心理学」では、幼児、児童及び生徒の心身の発達・学習や各発達の時期における主要な心的側面を理解するとともに、これらの知見を踏まえて主体的学習活動の仕組みとそれを支える指導や評価の基礎となる考え方を理解する。

「道徳教育」では、今後の道徳教育のあり方を問うべく、道徳教育の歴史、現状、課題について概説するとともに、優れた道徳教育の実践を紹介し、履修者自らが授業を構成していくための知識の修得を目指す。

「特別活動・進路指導」では、特別活動を構成する3内容を通して育まれる資質・能力について理解すると共に、進路指導・キャリア教育の視点に立った教育実践力の基礎的な技能を身につける。

「生徒指導論」では、生徒指導の意義、学習指導要領での位置づけ、生徒指導の組織と計画、指導方法、暴力行為・いじめ・不登校などの諸課題の現状とその対策、生徒指導関連法規についての知識を身につける。

「教育心理学特論」では、将来教師になる受講生が、学習者の個性や思考過程、学級集団の人間関係、中高生特有の心理的現象や問題を理解し、その支援や教育方法の基礎を学ぶ。受講生はこれらのテーマについて、主体的に学び、考えることを目指す。

「介護等体験」では、ガイダンス、事前指導、直前指導により、障害や福祉に対する理解を深めてから体験に臨み、障害者や高齢者と接した体験を事後学習で振り返ることで、教育と福祉で共通する対人援助の実践における個人の尊厳を理解し人権感覚を身につける。

【3年次】

3年次と4年次は、応用実践学修期である。

「数学科教育論1・2」では、数学科教育課程の意義及び編成の方法についての理解を深めるとともに、学習指導要領の内容を踏まえ、数学科の指導理念、指導内容、指導法、評価方法、情報機器活用の実践力等について学び、教科指導力の基礎を身につける。

「数学科指導法 1・2」では、学習指導要領をふまえ、教科・科目の目標、内容、目標に準拠した評価等を学び、指導と評価の計画、学習指導案を作成できる。さらに、模擬授業等を通して指導実践上の課題を把握し、改善に繋げる手立てを説明できる。

「理科教育論 1・2」では、教育課程の意義及び編成についての理解を深めるとともに、学習指導要領を踏まえ、現代社会に求められる理科教育の指導理念、指導内容、指導法、評価方法等の理論と実際について学び、生徒が探究的に科学概念を構築できるような理科指導力の基礎を培う。

「理科指導法 1・2」では、中学校・高等学校における理科教育の目標及び内容並びに全体構造を理解するとともに、小学校から高等学校までの理科教育の系統的指導について把握することができる。理科教員として必要な知識や技能を養い、指導方法の基本を身につけることができる。

「情報科教育法 1・2」では、情報科教育課程の意義及び編成の方法についての理解を深めるとともに、学習指導要領の内容を踏まえ、指導理念、指導内容、指導法、評価方法、情報機器活用の実践力等について学ぶだけでなく、主体的に授業改善を図る能力を養う。

「教育課程編成論」では、学校教育において教育課程が有する役割や機能、教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解し、教育課程全体をマネジメントすることの意義を説明することができる。

「教育工学（ICTの活用含む）」では、授業設計の諸理論に基づき学習目標を設定し、適切に教育方法や授業技術を選択できるようになる。また、板書や発問、教育機器の活用等の基礎を身につけるとともに、教育工学的視点から、授業設計の諸理論を学び、学習環境デザイン、情報機器の活用に必要な基礎知識を習得し、実践できるようになるとともに、関連した最近の研究動向を知ることが目的とする。

「教育相談の理論と方法」では、児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的・実践的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的・実践的知識を含む）を身につける。

「教育実習指導演習」では、教育実習指導で学んだ内容の演習を通して、指導と評価の一体化を説明し、指導と評価の計画、学習指導案を作成できるようにする。また、教科、道徳の模擬授業を通して授業実践上の課題を把握し、実践力の向上を図る。

「学校インターンシップ」では、前半の事前学習を受講後にインターンシップ（週 1 日 8 時間×5 回＝40 時間）実習を行う。後半の事後学習は、体験の振り返りを行うことで教育的省察を行う。

「教職パフォーマンス演習」では、受講者が、自らの手でゼロから漫才台本を作り、人前で漫才を披露することを通じて、教員が身につけるべきパフォーマンス力の育成を目指す。

「教育課題演習」では、今日のような教育課題について、グループ討論や、ロールプレイ、論述等の演習を行う。演習を通して、教育課題の理解を深めるとともに、教師としての資質を高め、教育の現場で役立つ実践的な指導力を養う。

「教育実習指導(事前)」では、授業実習、生徒実習、勤務実習における留意事項を学んで心構えを醸成するとともに、授業実習については、教科指導と特別の教科道徳の学習指導案の作成及び指導の在り方について学ぶ。

【4年次】

「教育実習指導(直前事後)」では、直前指導において、実習前の再点検を行い、職業人としての意識を持たせ、実り多き実習となるよう指導する。また、事後指導では、実習で得られた成果と課題を省察させ成長につなげる。

「教育実習1・2」では、経験豊かな指導教員のもと、教科指導力、担任としての生徒指導力を培うとともに、勤務実習を通して教育者としての使命感を体得する。さらに、チーム学校としての授業改善の取組みについて説明できるようにする。

「教職実践演習」では、大学で学んだ知識や理論と、教育実習等で得られた教科指導力や生徒指導力等の実践知との更なる有機的結合を図り、使命感や教育的愛情など、教職への確かな自覚を培い、教員としての資質能力の構築とその確認を行う。

また、以上の教職課程の到達目標に対し、目標到達の確認指標となる評価項目は以下のとおりである。

I 教員として求められる使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項

- 1 教師の服務事項(職務上・身分上の義務)について理解していますか
- 2 人権を尊重しながら子どもとかかわることができますか
- 3 生徒のプライバシー保護に十分配慮し、個人情報など、職務上知り得た秘密を守ることができますか
- 4 子どもに対する愛情と教育に対する熱意や使命感をもっていますか
- 5 困難な状況に対しても問題の解決に向けて粘り強く取り組むことができますか
- 6 自分が目指す教師像に接近するための努力をし、絶えず自らの教育観を磨き続けていますか
- 7 子どもの安全管理に関する基礎的知識をもっていますか
- 8 健康的な生活習慣にむけて、体調管理を心掛けることができますか
- 9 新聞やニュース等をよく読み、社会の動きに関心を持っていますか
- 10 教育学や心理学の知識や理論に関心をもち、活用することができますか
- 11 学校教育に関する法令等(憲法、教育基本法、学校教育法等)を学び、その基礎的な内容を理解していますか
- 12 文部科学省の施策等から現代の教育課題を把握しようと努めていますか
- 13 いじめ、不登校など、現代の教育課題に関心をもち、自分なりの意見をもっていますか
- 14 自らのストレスを発散するための自分なりの方法を身につけていますか

II 教員として求められる社会性や対人関係能力に関する事項

- 1 自らすすんで、あいさつができますか
- 2 服装やみだしなみなどのエチケットにも心を配ることができますか
- 3 他人から見た自分の表情を意識して、生徒に対する表情を工夫できますか
- 4 適切な言葉遣いで話すことができますか
- 5 書類の提出期限や約束の時間を確実に守るなど、社会人にふさわしい行動をとることができますか
- 6 中学生・高校生の発達段階を考慮し、相手の人格を尊重したコミュニケーションがとれますか
- 7 自分の担当する生徒に声をかけたり、相談にのったり、親しみを持った態度で接することができますか
- 8 自分の思いや考えを相手に的確に伝えることができますか
- 9 クラス全体の生徒に対して後ろに座る生徒にもきちんと聞こえるように声の大きさや話す速さをコントロールできますか
- 10 人の話を聴く時には相手が話しやすい態度で接し、その思いや考えを相手の立場に立って受けとめることができますか
- 11 他者からの評価やフィードバックを自己の成長に活用することができますか
- 12 集団の中で他者と協力して課題に取り組むことができますか
- 13 集団において、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができますか
- 14 組織の中で仕事をするにあたって「報告・連絡・相談」が大切であることを理解していますか

III 教員として求められる生徒理解や学級経営等に関する事項

- 1 生徒を観察したり、生徒の意見をよく聴いて、ありのままの姿を肯定的に受けとめることができますか
- 2 中学生・高校生の発達の段階や課題について理解していますか
- 3 教室掲示や座席配置を工夫し、生徒が学習しやすい教室環境を整えることができますか
- 4 教育相談に関する知識を有し、基本的な技法を身につけていますか
- 5 いじめ、不登校などについて、個々の生徒の特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか
- 6 キャリア教育の意義を理解し、その指導に必要な基本的知識・方法を身につけていますか
- 7 学校における道德教育、特別活動及び総合的な学習の時間の目標と内容を理解し、その具体的な指導方法を身につけていますか
- 8 特別支援教育に関する基礎的知識を有し、特別な教育的ニーズのある生徒に対する基本的な支援の方法を知っていますか
- 9 共生社会の形成に向けて、障害のある生徒など多様な生徒が共に学ぶ意味を理解していますか

IV 教員として求められる教科の指導力に関する事項

- 1 担当教科の教科書の内容を十分に理解していますか
- 2 学習指導要領及びその解説を精読し、担当教科等の目標・内容等を十分に理解していますか
- 3 担当教科等を学ぶ意義や、その楽しさ・面白さを、自分の言葉で生徒に語るすることができますか
- 4 常に新しい知識や情報を積極的に取り入れ、生涯を通じて学び続ける態度を身につけていますか
- 5 主な学習指導方法のメリットとデメリットを理解したうえで学習場面に応じて適切な方法を選択することができますか

- 6 生徒一人一人が学習内容に興味、関心をもつことができるように授業内容を工夫することができますか
- 7 学習指導案の内容と作成の手順を理解し、創意工夫しながらよりよいものに作り変えていくことができますか
- 8 各教科の年間指導計画の内容を理解し、自らの単元計画や本時案に反映させることができますか
- 9 生徒のつまずきや誤答を事前に予測し、指導に活かすことができますか
- 10 生徒が主体的に授業に参画するような発問をすることができますか
- 11 正しい書き順で、読みやすい丁寧な文字を書くことができますか
- 12 板書の基本的な技術を身につけていますか
- 13 ICT機器などの教授メディアを適切に活用し、創造的な授業を行うことができますか
- 14 わかりやすく読みやすい教材、資料、学習指導案等を作成することができますか
- 15 プレゼンテーションソフトや写真、動画等を活用した、適切な情報資料を作成することができますか
- 16 子どもの学習に対する主な評価の方法を理解していますか
- 17 「主体的・対話的で深い学び」を促すファシリテーション能力を身につけていますか
- 18 授業力の向上のために、自己の課題を認識し、その解決に向けて学び続ける姿勢をもっていますか